

鼠径（そけい）ヘルニア専門外来

富士見高原病院の外科では、鼠径ヘルニアの治療をより安全に、短期間で行うための「ヘルニア専門外来」（水・金曜日 8：20～11：00）を、設置しております。

鼠経ヘルニアとはどのような病気でしょうか

「鼠径ヘルニア」という病名には聞き覚えがなくても、「脱腸（だっちょう）」といえは知っている方も多いのではないのでしょうか。

脱腸は子供の病気と思われがちですが、実際には中高年に多い病気です。

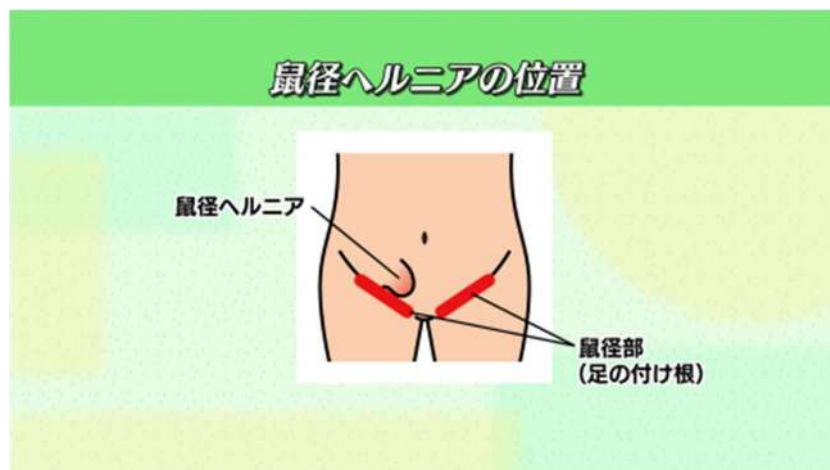
症状としては、最初は、立ったときや、お腹に力を入れたときに、鼠径部（足の付け根）にピンポン玉大のしこりがでたり、鼠径部の違和感を覚えたりします。

その後、しこりが徐々に大きくなり、こぶし大の大きさになることもあります。

横になったり、手で押さえたりすると引っ込むのが特徴です。

鼠経ヘルニアが出現する場所はどこでしょうか

こちらは、鼠径ヘルニアの出現する部位を示します。足の付け根部分を鼠径部といいます。おなかに力が入ると、緩んだ筋肉の穴から腸管などが飛び出し、鼠径部が膨らみ、おなかに力が入っていないときには、引っ込んでもとにもどります。



これは、鼠径ヘルニアの実際の写真です。右の鼠径部に卵の大きさくらいの、ふくらみがあります。右の写真では、ヘルニアがさらに進行し、大きくなり、陰囊まで腫れています。ここまで大きくなると簡単には戻らなくなります。



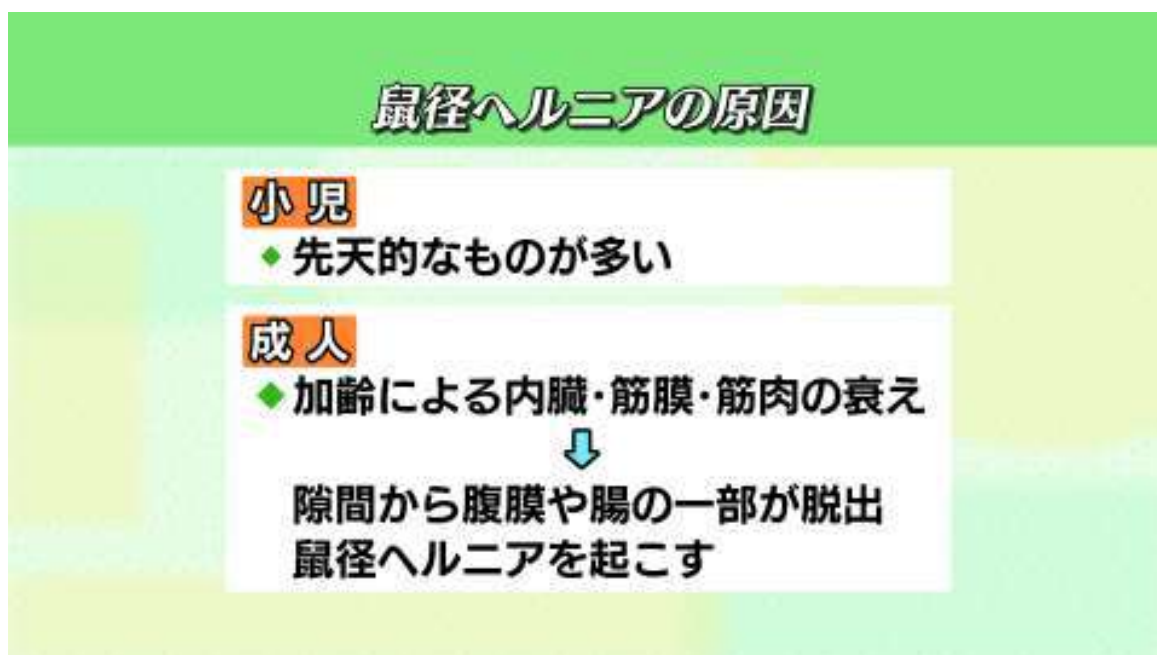
鼠径ヘルニアが発症しやすい年齢は？

ヘルニア学会が集計した1年間の手術数を示しています。鼠径ヘルニアの約9割は15歳以上です。8割は男性で、50歳～70歳代がピークになります。これに対して女性は20歳代や30歳代の若い世代にもみられます。



鼠径ヘルニアの原因は？

子供は生まれつきなことが多いです。生後9か月までは経過を見るのが良いとされています。大人の場合は、年齢を重ねることによって、内臓や組織を支えている筋膜や筋肉が衰え、壁の一部に穴が開くことが原因となります。この状態でお腹に力が入ると、広がったすき間から、脂肪や腸の一部が穴の中に入り込み、鼠径ヘルニアを起こします。



鼠径ヘルニアになりやすい方の特徴

鼠径ヘルニアになりやすい方には、ある程度の特徴があります。

- ・ 40 歳以上の男性
- ・ 重いものを持ち上げたり、運んだりする仕事や、立ち仕事をしている方
- ・ 日常生活面では、咳をよくする方、妊娠されている方、過度な運動をされる方などです。
- ・ 便秘気味でトイレでいきむことが多い方、肥満気味の方、ぜんそくや慢性肺疾患の方も、咳をすることでおなかに力がかかりやすいので、注意が必要です。
- ・ 小児期にヘルニアの既往がある方や、前立腺手術の既往がある方も鼠径ヘルニアになりやすいといわれています。

鼠径ヘルニアの要因

年齢・性別

- ◆ 40歳以上の男性

日常生活

- ◆ せきをよくする
- ◆ 妊娠中
- ◆ 過度な運動
- ◆ 便秘・肥満ぎみ

職業

- ◆ 重いものを持ち運ぶ
- ◆ 立ち仕事

病気

- ◆ ぜんそく
- ◆ 慢性肺疾患
- ◆ 小児期にヘルニアの既往
- ◆ 前立腺手術の既往 など

鼠径ヘルニアの危険な症状は？

鼠径ヘルニアでは、左のように、痛みもなく、しこりが簡単に出たり、引っ込んだりしている場合は問題ありません。しかし、右のように、お腹に力がかかった時に、脱出した腸が首を絞められ、戻らなくなり、激しい痛みが出現する場合があります。この状態をヘルニア嵌頓（かんとん）と呼びます。これは非常に危険な状態です。放置すると、腸が詰まる腸閉塞や、腸に血流がいかなくなることで腸が腐る、腸壊死や腸に穴が開く腸穿孔を起こし、腹膜炎を併発します。

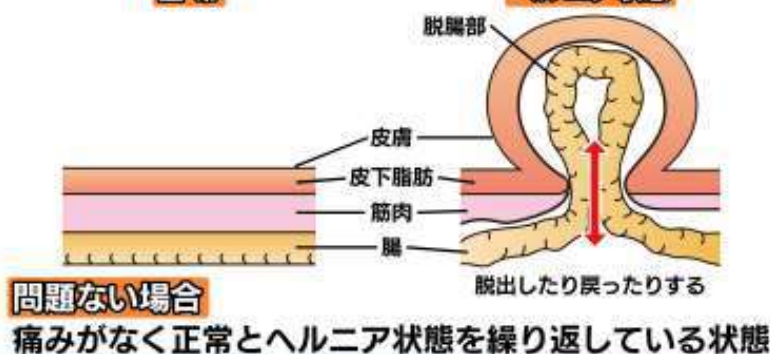
そうなると、緊急手術で腸を切除する必要性が生じ、生命に危険が及ぶ大手術になることがあります。

そのため、鼠径ヘルニアが疑われる場合は、早い時期に診察と治療を受けることが大切です。ちなみに、ヘルニア嵌頓の頻度は、数%から 10%程度と報告されています。

鼠径ヘルニア

正常

ヘルニア状態



鼠径ヘルニアの治療

ヘルニアバンドなどで外側からおさえている方もいますが、これでは完治はしません。

薬で治すこともできません。さらに適度な運動でも、緩んだ組織を回復させることはできません。

治療には基本的に手術が必要です。手術では、弱くなった筋肉や組織を補強して再発を防ぎます。

以前は筋膜を縫い合わせて補強する、組織縫合法が行われていましたが、この術式では、術後の鼠径部のツッパリ感や痛みが強く出現していました。

現在主流になっているのは、組織に緊張がかからないように、メッシュと呼ばれる人工補強材を用いて筋肉を補強する方法です。ヘルニアの部位を中心に、重なり合う筋肉の間にメッシュを広く、挿入し、補強します。

鼠径ヘルニアの手術

組織縫合法

- ◆ 筋膜を縫い合わせ補強

メッシュ法

- ◆ 人工補強材メッシュを用い筋肉を補強

鼠径ヘルニアの手術方法

当院では患者さんの状況やヘルニアの状態に応じて、手術方法を選択していますが、最近では腹腔鏡手術を基本にしています。左は従来法の切開創です。鼠径部に 5 cm 程度の切開を置き、ここよりメッシュを留置します。

右は腹腔鏡手術における切開創です。へそ上に 5mm、左右の下腹部に 5mm 程度の小さな切開を置き、この傷より長い鉗子などを挿入し手術を行います。

鼠径ヘルニアの手術方法

従来法



- ◆ 5 cm 程度を切開しメッシュを留置する

ふくろう

腹腔鏡下手術

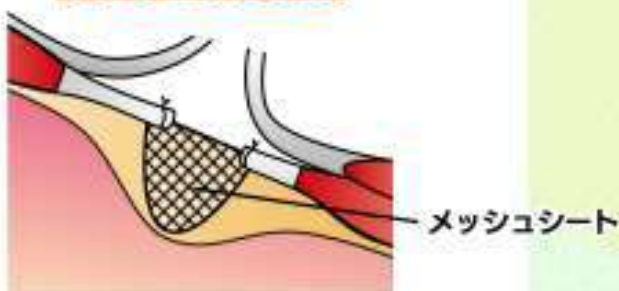


- ◆ へそ下 1 cm 左右下腹部に 5 mm を切開

従来法のメッシュプラグ法では、鼠径部に5 cmの切開を置き、そこからヘルニアの穴にメッシュでできたプラグを挿入し穴をふさぎ、その上をさらにメッシュのシートで補強します。
いわゆる、ヘルニアを前から攻める手術です。麻酔は、腰椎麻酔が中心で、全身麻酔や、局所麻酔で行うこともあります。

鼠径ヘルニアの手術方法

メッシュプラグ法



- ◆メッシュでできたプラグを挿入し穴をふさぎ
その上をメッシュのシートで補強する

鼠径ヘルニアの腹腔鏡手術

腹腔鏡手術のイメージです。このように、5 mm程度の傷から長い鉗子、カメラスコープ、はさみなどを挿入し手術を行います。いわゆるヘルニアを中から攻める手術です。

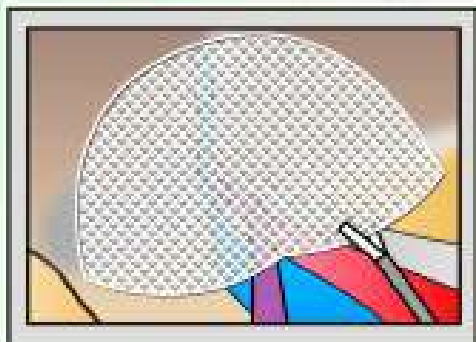
鼠径ヘルニア^{ふくご}腹腔鏡下手術



- ◆5 mm程度の創から鉗子・カメラスコープ
はさみなどを挿入し手術を行う

おなかの中をモニター画面に映しながら、病変を確認し、鼠径ヘルニアの穴をふさぐように、鉗子などを使いメッシュを留置します。

鼠径ヘルニア腹腔鏡下手術



モニター画面



手術の様子

- 腹部内をモニター画面に映しながら鉗子などを使い鼠径ヘルニアの穴をメッシュでふさぐ

腹腔鏡で観察した実際の腹腔内の様子

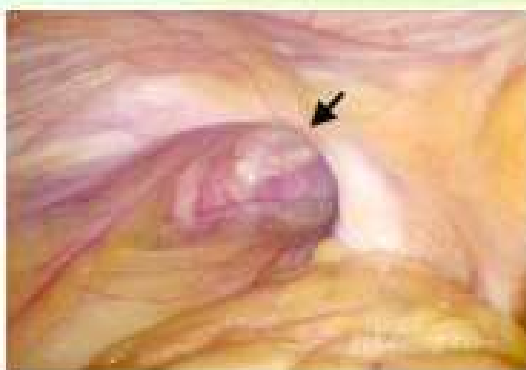
左は正常で組織のゆるみはなく穴は空いていません。

右は鼠径ヘルニアです。周囲の組織が緩み、親指大の穴が開いています。おなかに力がかかった時に、この穴に腸などが入り込み、鼠径部が膨隆します。

鼠径ヘルニア腹腔鏡下手術の画像



正 常



鼠径ヘルニア

修復用のメッシュです。非吸収性の人工補強材で溶けることはなく、これを穴の周囲に縫い付け、ヘルニアの穴をふさぎます

非吸収性の修復用メッシュ



- ◆ 非吸収性の人工補強材のため溶けない
- ◆ 穴の周囲に縫い付けヘルニアの穴をふさぐ

メッシュを逢着した状態です。メッシュはタッカーと呼ばれるホチキスのような器具で、筋肉に固定されます。メッシュ逢着後、左の写真のように腹膜を縫い合わせ手術終了です。腸が入り込む隙間はなく、ヘルニアの再発率は数%といわれています。

鼠径ヘルニア腹腔鏡下手術の画像



メッシュを設置



メッシュ設置後に縫い合わす

腹腔鏡手術の長所と短所

●長所

傷が小さく、きれいになります。

術後の痛みや慢性期の痛みが少ないため、早期の社会復帰が可能となります。

入院期間は平均 3 泊 4 日程度です。

おなかの中より、反対側も観察できるため、複数のヘルニアや、反対側のヘルニアの診断も容易となります。

両側にヘルニアがある場合でも、新しい切開を追加することなく、同じ創で手術が可能となります。

腹腔鏡下手術のメリット

- ◆ 創が小さく手術痕が目立たない
- ◆ 術後早期・慢性期の痛みが軽減
- ◆ 早期の社会復帰が可能
- ◆ 複数のヘルニアの診断・手術が可能

●短所

従来法は腰椎麻酔や局所麻酔で行いますが、腹腔鏡手術は全身麻酔になります。

手術手技が煩雑で、手術時間がやや長くなります。当科では、従来法が 30 分から 1 時間程度、腹腔鏡手術が 1 時間から 1 時間半程度です。

腹腔鏡下手術のデメリット

- ◆ 全身麻酔が必要
- ◆ 手術時間が長い

以上を踏まえたうえで、患者さんの全身状態やご希望で治療法を選択することになります。

鼠径ヘルニアの治療期間

入院期間は 3 日から 5 日程度です。腹腔鏡手術では平均 3 泊 4 日程度になっています。

安静期間は、メッシュを用いることで筋肉の緊張がなく、突っ張ることがほぼないため、翌日から、普通の日常生活は可能です。

力仕事、スポーツは術後、2 週間から 1 か月後程度から可能です。

鼠径ヘルニアの治療期間

- 入院期間**
 - ◆ 3 日～1 週間
- 安静期間**
 - ◆ 手術翌日より日常生活は可能
- 通常の活動**
 - ◆ 力仕事・スポーツは術後 2 週間～1 か月程度から開始

鼠径ヘルニアの治療費

従来法では、腰椎麻酔で行った場合、自己負担額は1割負担の方で3万円程度、3割負担の方で、高額療養費制度を使用し、8万円程度になります。
腹腔鏡手術では、全身麻酔で行い、1割負担の方で5万円程度、3割負担の方では、同様に9万円程度になります。

最後に

鼠径ヘルニアは、痛みがなく日常生活に支障がなければ急ぐ必要はありませんが、自然治癒することはない、放置すると嵌頓する恐れがあります。
鼠径ヘルニアは嵌頓を起こす前に手術を受けることが何より重要ですので、早めに受診をお勧めします。お気軽にご相談ください。

当科のヘルニア手術の特徴

- ・心臓、肺、脳血管、腹部臓器等に現在病氣を持っておられる 患者さんであっても、安全に手術を受けることができるように、他科との協力体制のもと外科チームにてサポートさせていただきます
- ・手術方法は、全身麻酔下での、メッシュプラグを用いた腹腔鏡下手術を原則としています。40歳以下の方の場合には、人工物を使用しない場合もあります。
- ・入院日数は、手術前日に入院、術後3～4日目に退院となります。ご希望により入院日数を短縮することも可能です。
- ・15歳以下のお子さんの手術は、翌日に退院をしていただいています。
- ・はじめての方も、紹介状（診療情報提供書）の有無に関係なく受診いただけます。
- ・手術を受けるべきかお悩みの方の相談も受けております。
- ・診断がつき次第、入院予約を行い、可能な限りご希望の日程で早期に手術を受けていただけるよう調整させていただきます。

診療受付時間 水・金曜日 午前8時20分から11時まで

お問い合わせ先 富士見高原病院 外科外来

電話：0266-62-3030（代表）または0266-61-0489（予約センター）